

櫻井会長あいさつ

都道府県会長会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

私は、去る平成31年4月30日及び令和元年5月1日に行われた御退位及び御即位関連式典に町村議会議長の代表として参列し、時代が移り変わる瞬間に立ち会う栄誉に預かって参りました。

儀式では、上皇陛下、天皇陛下ともお言葉の中で、新しい時代が、国民が幸福であり、世界が平和であることを切に望まれておられましたが、これらを実現するために、我々も地方議会人として与えられた職務に精励し、我が国の発展に寄与せんことを強く心に誓ったところであります。

振り返れば、平成の時代は地方分権が進展し、町村及び町村議会の権能と責任が増大した時代でありましたが、その一方で、少子高齢化という社

会情勢を背景に地域間格差が拡大した時代でもありました。

特に「東京一極集中」による弊害で地方の活力が削がれ、地域社会の存続が困難になるという問題が浮き彫りとなり、令和の時代に持ち越された課題となっております。

この課題の克服のためには、国と地方がともに取り組んでいる地方創生の気運を全国で高め、地域社会の衰退を国家の危機と捉えて行動することが肝要であります。

後年になって、令和の時代は「地方創生の時代」であったと振り返ることができるよう、地方自治の一翼を担う我々も鋭意努力を重ねて参りたいと思っております。

この「地方創生」については、本年が第1期総

合戦略の最終年にあたることから、これまでの取組の成果と課題を検証し、第2期に繋げていく必要があります。

先日、片山地方創生担当大臣と意見交換を行う機会がありましたので、私からは、地方が腰を据えて事業に取り組めるよう、継続的な財政支援をお願いしたうえで、「地方創生」の主体が行政と議会に偏ることなく、住民や地元企業を交えた地域全体となる様な仕組づくりや、民間活力を利用した気運醸成の重要性について申し述べたところがあります。

これから夏に向かって、政府では、令和2年度の予算編成に向けた作業が本格化して参ります。

本会においても、町村の声を概算要求に反映させるべく、次回の都道府県会長会に要望案をご提案させていただくこととしておりますが、それま

での間に、「国と地方の協議の場」など、政府と地方の代表が直接意見交換を行う機会がありますので、私からは町村の行財政運営が健全かつ効果的に行うための予算確保並びに施策の充実について、申し述べて参りたいと考えております。

さて、本日の会議では、「平成30年度事業報告及び決算」を提案させていただいております。

議長会会計については、予算ベースで3,500万円余りの単年度赤字を見込んでいましたが、効率的な事業運営と経費分担の工夫により、赤字額は400万円余りに縮減いたしました。

共済会、互助会、議員会館の決算の詳細については、後程詳しくご説明申し上げますが、各団体とも議長会と表裏一体の運営を行っておりますことをご理解いただき、いずれの決算も慎重審議のうえ、ご承認いただきたくお願い申し上げます。

最後に、都道府県会長会の議事が円滑に進行しますよう、各位のご協力をお願い申し上げ、開会にあたってのご挨拶といたします。

どうぞ、宜しく願いいたします。